
真実を知ってください
覚せい剤
アイス
テイナ
クリッシー
スピード
ツイーク
メス
グラス
jp.drugfreeworld.org

この小冊子が制作された理由

薬物についてのさまざまな情報が氾濫しています。学校や街中、インターネットやテレビで。その中には正しい情報もありますが、そうでないものもあります。

薬物に関して耳にするほとんどのことが、実は売人からのものなのです。かつての売人たち曰く、「買わせるためならどんなでたらめでも言う。」

薬物についての実態と真実を知ればまともな決断を下すことができます。この小冊子は、そのために制作されたものです。あなたのために。

あなたのご意見、ご感想は貴重です。ですからこの小冊子について感じたことをお知らせください。**jp.DrugFreeWorld.org** にアクセス、または **info@drugfreeworld.org** までＥメールでご連絡ください。

結晶状覚せい剤とは？

覚せい剤には、結晶状覚せい剤（クリスタル・メタンフェタミン）と呼ばれるものがあります。それはメタンフェタミンの一種で、強力で非常に依存性の高い興奮剤です。

結晶状覚せい剤は、ナイトクラブやレイヴ・パーティーで遊んでいる時に摂取される「クラブ・ドラッグ」としてよく使われます。

結晶状覚せい剤の作用は非常に強力です。その影響は強烈で、たった1回使っただけで依存するようになったと報告する人もいます。

「一度試したら、すごかった！ 依存症になった」と、家族、友人、ミュージシャンとしてのキャリアを失い、ホームレスになった覚せい剤依存者は言っています。

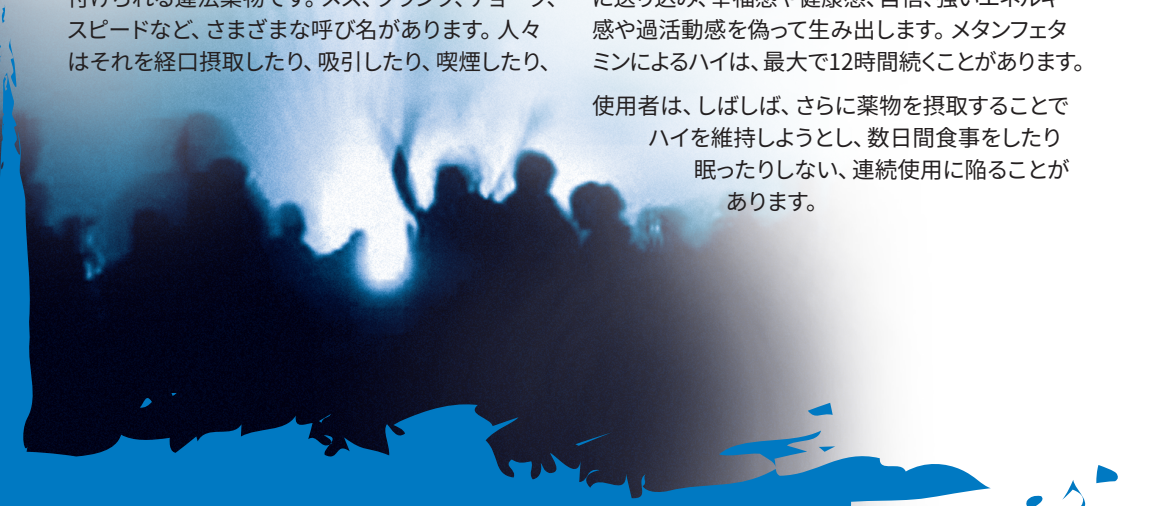
それは、克服するのが最も難しい薬物依存症の1つです。ある研究によると、薬物リハビリを受けた人の3分の2近くが、1年以内に覚せい剤の使用に戻っていました。



メタンフェタミンとは？

メタンフェタミンは、コカインやその他の強力なストリート・ドラッグと同じクラスに位置付けられる違法薬物です。メス、クランク、チョーク、スピードなど、さまざまな呼び名があります。人々はそれを経口摂取したり、吸引したり、喫煙したり、注射したりします。メタンフェタミンは、快楽に関連する天然の化学物質であるドーパミンを脳に大量に送り込み、幸福感や健康感、自信、強いエネルギー感や過活動感を偽って生み出します。メタンフェタミンによるハイは、最大で12時間続くことがあります。

使用者は、しばしば、さらに薬物を摂取することでハイを維持しようとし、数日間食事をしたり眠ったりしない、連続使用に陥ることがあります。



メタンフェタミンは強力な興奮剤として作用します。しかし、それは毒でもあるため、人がハイになっている間に、その薬物は体系的に体を破壊し始めます。

メタンフェタミンの使用は、記憶喪失、攻撃性、異常な行動、心臓や脳への潜在的な損傷といった深刻な健康問題と関連しています。メタンフェタミンの使用は身体のエネルギーを枯渇させ、さらに薬物を摂取することでしか和らげられない、壊滅的な依存を生み出す可能性があります。



2002年のメタンフェタミン使用者

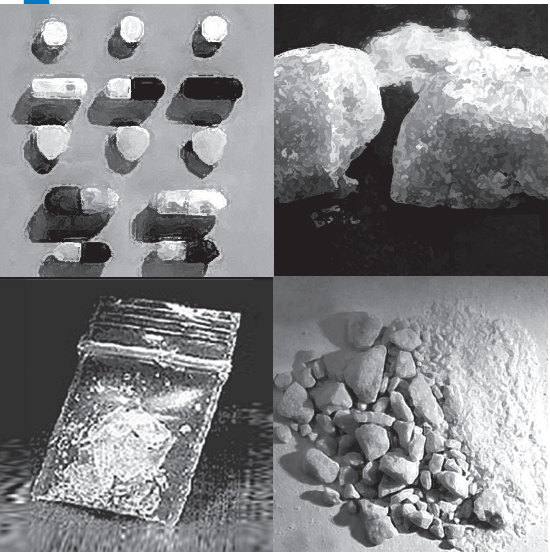


…そして2年半後

「私は高校の最終学年の時に結晶状覚せい剤を使い始めました。大学の最初の学期が終わる前に、覚せい剤がとても大きな問題になり、私は退学しなければなりませんでした。私は、鏡の中の自分を何時間も見つめて自分をかきむしっていたので、水痘にかかったように見えました。私は、覚せい剤をやるか、それを手に入れることに、全ての時間を費やしていました。」

—アン・マリー

メタンフェタミンの形状は？



メタンフェタミンは通常、白、青、黄色、または茶色の結晶性の粉末です。無臭で苦い味がし、水やアルコールに簡単に溶けます。

結晶状覚せい剤は、小さなガラスの破片や青白い光沢のある石のように見え、最も一般的にアイスまたはグラスと呼ばれます。この形態は、粉末状のメタンフェタミンよりも純度が高く、より強烈で長く続く影響があります。

結晶状覚せい剤は、ガラスのパイプを使って吸ったり、溶かして注射したりします。



覚せい剤の通称

覚せい剤と結晶状覚せい剤は、さまざまな名前で呼ばれています。

メス

- ベニー
- チョーク
- チキンフィード
- シナモン
- クランク
- クリンク
- クリプト
- ゲッゴー
- ゴー・ファスト
- メス
- メスリーズ・クイック
- メキシカン・クラック
- ペルビチン（チェコ製）
- レッドネック・コカイン
- スピード
- ティクティク
- ツイーク
- ウォッシュ
- ヤーバまたはヤバ（東南アジア製）
- イエローパウダー

結晶状覚せい剤

- バツ
- ブレード
- クリスティー
- クリスタル
- クリスタル・グラス
- グラス
- ホット・アイス
- アイス
- クオーツ
- シャブ
- シャーズ
- ストーブ・トップ
- ティナ
- ベンタナス

覚せい剤の成分は？

覚せい剤（メタンフェタミン）は、コカインのように植物から作られたものとは異なり、合成された「人工」の化学物質です。

メタンフェタミンは通常、密造工場でさまざまなタイプのアンフェタミン（興奮剤）やそれに類する化合物を用いて製造されますが、効果を増すために他の化学物質が混ぜられています。一般的な風邪薬の錠剤が、薬物の製造ベースとしてよく使われます。メタンフェタミンの「調理人（製造者）」は、これらの錠剤から成分を抽出し、その強さを増すために、バッテリー液、排水管洗浄剤、ペイント薄め液、リチウム（電池から）、ヨウ素、ランタン用燃料、不凍液などの化学物質を混ぜ合わせます。メタンフェタミンには、人間が摂取することを想定していない、最大32種類の化学物質が含まれている可能性があります。

メタンフェタミンの製造に使われる化学物質は危険で、「調理」中に爆発することがあります。こういった事故は近隣の人たちにとっても非常に危険です。メタンフェタミンの調理人は、しばしば本人も依存者であり、爆発によってひどい火傷を負ったり、外観を損なったり、命を落としたりすることがあります。

メタンフェタミンの製造所はまた、有毒な廃棄物を生み出します。約500グラムのメタンフェタミンを作ると、土壌や地下水に染み込む可能性のある約2,500グラムの廃棄物が生じます。法執行機関を含め、この廃棄物にさらされた人々は、汚染され、病気になる可能性があります。

「福祉手当だけでは、私たちの覚せい剤の習慣と息子の養育費を賄うことができなかったので、私たちは借りていた家を覚せい剤の製造所にしました。私たちは、冷蔵庫に有毒な化学物質を保管していました。毒素が冷蔵庫の他の食べ物に染み込むとは知らずに。

3歳の息子にチーズを食べさせていた時、自分が毒入りの食べ物を息子に与えていることには気付いていませんでした。覚せい剤のせいであまりにハイになっていたので、息子が死にそうになっているのに気づいたのが、12時間も後のことでした。でも、あまりにハイだったので、10キロ離れた病院まで、息子をどうやって連れて行くかを考えるだけで、2時間が過ぎました。救急処置室に着いた時には、**息子は死んでいました**。死因は、致死量の水酸化アンモニウムの摂取でした。それは覚せい剤をつくるのに使われる薬物のひとつでした。」―メラニー

結晶状覚せい剤の密造所

世界的な依存症の流行

国連薬物犯罪事務所は、世界で約2,700万人がアンフェタミン系の覚醒剤（メタンフェタミンを含む）を使用していると推定しています。

米国における覚せい剤の使用は、重大な問題です。覚せい剤に関連する死亡者数は、年間5,526人から15,489人に増加しました。およそ180パーセントの増加です。

米国政府は、1年間で12歳以上のアメリカ人約200万人が覚せい剤を使用し、そのうち184,000人が初めて使用したと報告しました。12歳以上の約100万人が覚せい剤依存に苦しんでいます。

チェコでは、覚せい剤はペルビチンとして知られており、広く乱用されています。その使用は主に国内ですが、ペルビチンはヨーロッパ諸国にも輸出されています。チェコ、ドイツ、スロバキア、トル

コが、ヨーロッパで覚せい剤の乱用治療を求める人の90パーセントを占めています。

東南アジアでは、覚せい剤の最も一般的な形態は結晶状覚せい剤（フィリピンではシャブと呼ばれる）、そしてタイでヤーバと呼ばれる小さな錠剤です。



覚せい剤の有毒な成分は、メス・マウスとして知られる深刻な虫歯を引き起こし、歯が黒くなり、着色し、腐ります。歯はしばしば、抜かなければならないほどに損傷し、歯茎は内側から破壊され、根は腐っていきます。

覚せい剤の致命的な影響

使用者への短期的および長期的な影響

覚せい剤や結晶状覚せい剤を摂取すると、強烈な偽りの幸福感が生まれ、使用者は自分の身体を本来の限界を超えて酷使します。効果が切れると、覚せい剤使用者は激しい落ち込みや、身体的および精神的な崩壊を経験することがあります。薬物を使用し続けると、自然に生じる空腹感が感じられなくなるため、体重が極端に減少する場合があります。悪影響には、睡眠パターンの乱れ、多動、吐き気、誇大妄想、攻撃性、神経過敏なども含まれます。

他の深刻な影響には、混乱、不眠症、幻覚、不安、偏執症*などがあります。場合によっては、使用が死に至るけいれんを引き起こすことがあります。



結晶状覚せい剤の恐ろしい影響は、それを乱用する人々の傷だらけで、老け込んだ顔に現れます。

永続的な損傷

覚せい剤の使用は、時間の経過とともに取り返しのつかない害を引き起こす可能性があります。心拍数と血圧の上昇、脳内の血管の損傷による脳卒中、または不整脈が原因で心臓血管†系の崩壊や死を引き起こすことがあります。覚せい剤依存者は、肝臓、腎臓、肺にも損傷を受ける可能性もあります。

使用者は、記憶障害や認知障害を引き起こす脳の損傷を受けることもあります。覚せい剤依存から回復しつつある人は、記憶の欠落や極端な気分の変動を経験することがよくあります。

* 偏執症：証拠や正当な理由のない、何かに対する極度で不合理な不信感や恐れ
† 心臓血管：心臓と血管に関連すること
‡ アルツハイマー病：記憶喪失を伴う、高齢者に影響を及ぼす病気

覚せい剤の害

短期的な影響

- 食欲減退
- 心拍数、血圧、体温の上昇
- 瞳孔の拡大
- 睡眠障害
- 吐き気
- 奇妙で突発的な行動
- 依存性
- 過剰摂取によるけいれん、脳卒中、突然死

長期的な影響

- 心臓および脳血管の永久的な損傷
- 心臓発作、卒中、死につながる高血圧
- 肝臓、腎臓、肺の損傷
- 鼻から吸引した場合、鼻の中の細胞破壊による鼻血
- 喫煙した場合、呼吸器の障害
- 注射の場合、伝染病やはれもの
- 栄養失調、体重の減少
- 重度の虫歯
- 周囲を正しく認識できなくなる、無気力、混乱から来る極度の疲労
- 強い心理的依存
- 精神病
- 視覚および聴覚の幻覚
- 過剰な興奮
- いらいら
- 妄想（皮膚の下を虫が這っているような感覚など）
- 抑うつ
- 記憶喪失
- 偏執症（殺人や自殺の考えにつながることもある）
- 攻撃的または乱暴な振舞い
- アルツハイマー病‡やてんかんに似た脳の損傷

覚せい剤が人々の人生に与える影響

覚せい剤の使用は、さまざまな形で人生を支配するようになります。乱用には3つの主なレベルがあります。

軽度の覚せい剤乱用者：
軽度の乱用者は、覚せい剤を飲み込むか、または鼻から吸引します。こうした人たちは、仕事を終わらせるまで目を覚ましていられるように、覚せい剤の強い覚醒作用に頼るのです。また体重を減らすために食欲を抑える作用を欲する人たちもいます。彼らは、覚せい剤の常習者になる一歩手前です。

覚せい剤の常習者：
常習者になると、喫煙か注射で覚せい剤を取るようになります。こうすると薬物をより効き目の強い形で摂取することになるので、さらに強い「快感」（ラッシュ）を得ることができ、それが心理的な依存につながるのです。使い続けると、人はより重度の乱用へと移行していきます。

重度の覚せい剤乱用者：
重度の覚せい剤乱用者は完全な覚せい剤依存者です。こうした人たちの生活は、薬物で「ハイ」になった後に襲ってくる強烈な落ち込みを防ぐことだけに向けられています。そのため、乱用者は薬物から「快感」（ラッシュ）を得るために、さらに多くの量を摂取しなければならなくなっていきます。しかし、他の薬物と同様、得られる快感は1回ごとに弱くなっていくため、覚せい剤依存者は、救いようのない命取りの悪循環へと陥っていくのです。



覚せい剤の使用により「経験」する段階

1 ラッシュ ― ラッシュは、覚せい剤を注射した時に、乱用者が最初に感じる反応（快感）です。快感を感じている間、乱用者は心拍数が急激に上昇し、代謝＊が活発になり、血圧や脈拍が上昇します。約2～5分間しか持続しないクラック・コカインによる快感とは異なり、覚せい剤がもたらすラッシュは30分間も持続することがあります。

2 ハイ ― 快感の後に続くのが「ハイ」の状態です。ハイになっている間、乱用者はしばしば自分が攻撃的で鋭敏になったように感じ、論争を仕掛けたり、他人の話に割り込み、その人たちの話に勝手に結論を出したりします。また薬物の作用で妄想しがちになり、何時間も同じ窓の掃除を繰り返すなど、取るに足らないことに過度に集中するようになります。ハイの状態は4時間から16時間持続することがあります。

＊ 代謝：体内で食物がエネルギーに変換される過程

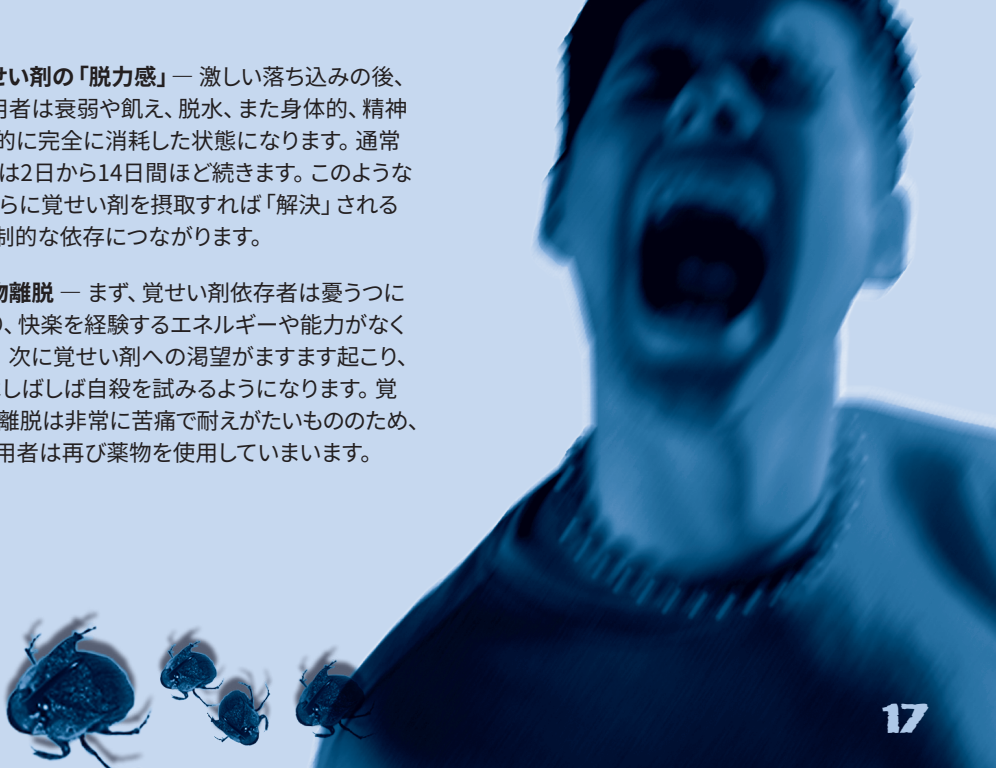
3 **常習** ― 常習とは、薬物やアルコールの使用を制御できなくなった状態のことです。乱用者がハイの状態を保つために、さらに覚せい剤を喫煙、注射しようとする衝動を抑えられなくなることをいいます。酩酊状態は3日から15日持続することがあります。酩酊状態の間、乱用者は精神、身体の両面で多動（ハイパーアクティブ）になります。彼らがさらに薬物を喫煙、あるいは注射するたびに、その人が感じる快感は弱まっていき、最終的には快感もハイの状態も感じられなくなってしまいます。

4 **禁断症状** ―「禁断症状」と呼ばれる段階に達した覚せい剤の乱用者は最も危険な状態にあります。これは、酩酊状態が終わり、もう覚せい剤から快感やハイの状態が得られなくなってしまった時に起こる現象です。乱用者は猛烈な空虚感と薬物への渇望を軽減することができず、自己の感覚を失ってしまいます。この状態に共通しているのは強烈なかゆみで、使用者は皮膚の下を虫が這いまわっていると思い込むことがあります。何日も眠ることができず、しばしば完全に精神に異常をきたした状態になり、自分だけの世界に入り込み、誰にも知覚することができないものを見たり聞いたりするようになります。彼らの幻覚は鮮明で、現実のように思えます。現実から切り離され、使用者は自分自身や他人に対して敵意を持ち、危険になることがあります。自傷行為をする可能性が高くなります。

5 **激しい落ち込み** ― 身体が薬物の作用にそれ以上対処できず機能を停止したとき、常習乱用者に、激しい落ち込みが起こります。その結果、長時間眠ることになります。最も凶暴な乱用者でさえ、激しい落ち込みの状態にある間は生気がなくなります。激しい落ち込みは1～3日続くことがあります。

6 **覚せい剤の「脱力感」** — 激しい落ち込みの後、乱用者は衰弱や飢え、脱水、また身体的、精神的、感情的に完全に消耗した状態になります。通常この状態は2日から14日間ほど続きます。このような状態はさらに覚せい剤を摂取すれば「解決」されるため、強制的な依存につながります。

7 **薬物離脱** — まず、覚せい剤依存者は憂うつになり、快楽を経験するエネルギーや能力がなくなります。次に覚せい剤への渇望がますます起こり、乱用者はしばしば自殺を試みるようになります。覚せい剤の離脱は非常に苦痛で耐えがたいもののため、多くの常用者は再び薬物を使用していまいます。



覚せい剤の歴史

覚せい剤は新しい薬物ではありませんが、製造技術の進歩によって、近年さらに強力になってきています。

アンフェタミンは1887年にドイツで初めて製造され、さらに強力で製造が容易なメタンフェタミンは、1919年に日本で開発されました。その結晶性の粉末は水に溶けるため、注射に適していました。

第二次世界大戦中、メタンフェタミンは兵士を眠らせないために、両陣営で広く使用されました。日本では、神風特攻隊の隊員が自爆作戦の前にメタンフェタミンを大量に与えられました。戦後、軍の供給品が一般の市民に出回り、注射によるメタンフェタミンの乱用が広まりました。

1950年代にはメタンフェタミンはダイエットの補助薬やうつ病の治療薬として処方されていました。それは簡単に手に入り、大学生やトラック運転手、運動選手たちによって医療目的以外の興奮剤として使用され、広範囲な乱用につながりました。

このパターンは1960年代に大きく変わり、注射用メタンフェタミンの入手が容易になったことで問題が悪化しました。

1970年、米国政府はメタンフェタミンのほとんどの使用を違法としました。その後、米国のバイクギャングが、この薬物の製造と流通の大部分を支配しました。

1990年代には、メキシコの麻薬密売組織がカリフォルニアに大規模なメタンフェタミンの製造所を設置しました。これらの巨大な製造所は、たった1つの週末で約23キロのメタンフェタミンを製造することができました。またキッチンやアパートに小規模な個人の製造所も現れ、この薬物はストーブトップというニックネームで呼ばれるようになりました。覚せい剤は、米国全土に、そしてヨーロッパにも広がりました。今日、アジアで入手できる覚せい剤のほとんどは、タイ、ミャンマー、中国で生産されています。



神風特攻隊員は、自爆という特別任務を果たす前に、メタンフェタミンを与えられました。

真実を知ってください：薬物

薬物は基本的に毒です。その作用は、摂取する量によって決まります。

少し摂取すると、活動をより活発にする中枢神経刺激剤として作用します。多めに摂取すると、活動を抑制する鎮静剤として作用します。さらに多量に摂取すると毒となり命を奪います。

これはどの薬物にも当てはまります。こうした作用を引き起こすのに必要な量が違うだけです。

それだけではなく、多くの薬物には人のマインドにも影響を及ぼす弊害があります。薬物を取っている人が自分の周囲で起こっていることを知覚しても、それは歪んだものになってしまう可能性があります。その結果、その人の行動は奇妙だったり、不合理であったりするかもしれません。暴力的になることもあるでしょう。

薬物は、全ての感覚を遮断します。望ましい感覚も望ましくない感覚もです。そのため、短期的には痛みを和らげるために役に立ちますが、同時に人の能力や機敏さを消し去り、思考を不明瞭にします。

医薬品は、身体の働きを良くしようとして、何かを速めたり、遅くしたり、身体の働きを変えることを意図した薬物です。時には必要ですが、薬物であることに変わりはありません。中枢神経刺激剤や鎮静剤といった薬物を取り過ぎれば命を落とすこともあります。したがって、医薬品は規定通りに使用されない場合、違法薬物と同様に危険なものになり得ます。


本当の解決策は、
事実を認識し、最初から
薬物など使用しないことです。

なぜ人は薬物を取るのでしょう？

人が薬物を取る理由は、自分の人生を変えたいと思うからです。

若い世代の人たちが薬物を取る理由には、以下のものがあります。

- 周りとうまくやっていきたい。
- 問題から逃避、またはリラックスするため。
- 退屈を紛らわすため。
- 大人になったような気がするから。
- 反抗するため。
- どんなものか試してみたい。

こういった若者は、薬物が問題を解決してくれると思っているのです。しかし、結局のところ薬物は問題にしかなりません。

自分の問題に直面することが困難なこともあるでしょう。しかし、薬物によって解決しようとしている問題よりも、薬物を使用した方が常に悪い結果を招きます。本当の解決策は、事実を認識し、最初から薬物など使用しないことです。



この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズは、これまでに20以上の言語で出版され、世界中で何百万部も配布されてきました。



新しい薬物が次々と世の中に出回っており、その影響に関する新たな情報が知られるようになっています。本シリーズはそうした新しい情報を盛り込んだ最新版です。

これらの小冊子シリーズは、カリフォルニア州ロサンゼルスを拠点とする非営利の公益法人「薬物のない世界のための財団」によって出版されています。

財団は、その国際防止ネットワークを通して各種教育資料や助言を提供したり、調整を行ったりしています。また、青少年や保護者、教育者やボランティア団体、政府機関ばかりではなく、薬物乱用のない人生を送ることに関心のある人なら誰とでも協力しています。

参照文献：

この小冊子をまとめるのに使われた参照文献：jp.DrugFreeWorld.org/refs

写真：2ページ：Corbis; 3ページ：istock.com, Lou Oats; 5ページ：Faces of Meth; 6ページ：DEA(右下：結晶状覚せい剤);
12ページ：Attorney General's Office, Taswell County, Illinoisによる提供（右：覚せい剤使用者1998–2004）

知っておくべき真実

この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズには、マリファナ、アルコール乱用、フェンタニル、危険ドラッグ、エクスタシー、コカイン、クラック・コカイン、覚せい剤、有機溶剤 / 吸入ガス、ヘロイン、LSD、処方薬乱用についての正確な情報がまとめられており、読者が自分の意志で薬物のない人生を送ることができるように役立つ内容になっています。

無料オンライン・コースを行う、または地域の薬物のない世界支部とつながるには、jp.DrugFreeWorld.org にアクセスしてください

薬物のない世界のための財団

jp.DrugFreeWorld.org • info@drugfreeworld.org

1 (888) 668-6378 • 1 (818) 952-5260

この小冊子をダウンロードするには ここをスキャン

© 2025年 Foundation for a Drug-Free World. 不許複製。Truth About Drugsおよび薬物のない世界のための財団のロゴは Foundation for a Drug-Free Worldが所有しており、使用にあたってはその許可が必要です。#S001562 - Japanese